

高原の風だより

2023（令和5）年4月 発行 <第25号>

旧黒川小学校 木造体育館をリノベーション 木曾おもちゃ美術館 親子連れに人気



高さ7mの木曾ヒノキのシンボルツリーが出迎える

木製のリンゴやキノコ、トウモロコシなどの収穫ごっこが楽しめる

昭和3年に建設された旧黒川小学校の木造体育館を大きくリノベーションして昨年11月19日、ふるさと体験木曾おもちゃ美術館がオープンした。木育の普及や多世代交流、地域活性化などを目的に、東京おもちゃ美術館の監修のもとに10館目の姉妹館として誕生した。県内では初になる。

体育館は木曾ヒノキなどを使って2階建てになり、館内には木製のおもちゃなど500種類、2500点余りが集められ、赤いエプロンを身に着けたボランティアのおもちゃ学芸員が遊び方を教えてくれる。

開館以来、特に週末は親子連れなどでにぎわいを見せている。木のオブジェに磁石で付けた木製のリンゴやトウモロコシ、キノコ、赤カブなどの収穫が体験できるコーナーや木曾五木を卵型に加工したボールプールなど、子どもたちの笑顔があふれている。もちろん子どもたちだけではなく、大人も十分楽しめるさまざまなおもちゃや遊び、見どころが満載だ。

～木の香りに包まれた木育の拠点～

木のおもちゃ めくもり体感

東京おもちゃ美術館の姉妹館一覧



お寿司屋さんごっこを楽しむ子どもたち

	開設	名称(都道府県)
	昭 60.10	東京おもちゃ美術館(東京都)
1	平 26. 4	やんばるの森おもちゃ美術館(沖縄県)
2	平 30. 4	長門おもちゃ美術館(山口県)
3	平 30. 7	鳥海山 木のおもちゃ美術館(秋田県)
4	令 2. 7	花巻おもちゃ美術館(岩手県)
5	令 3. 7	焼津おもちゃ美術館(静岡県)
6	令 3.10	徳島 木のおもちゃ美術館(徳島県)
7	令 3.11	檜原 森のおもちゃ美術館(東京都)
8	令 4. 4	福岡おもちゃ美術館(福岡県)
9	〃	讃岐おもちゃ美術館(香川県)
10	令 4.11	木曾おもちゃ美術館(長野県)

全国で 10 館目のおもちゃ美術館

東京おもちゃ美術館を運営する特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会では、おもちゃと遊びの文化を全国に広めるため、地域の特色を生かした自然と文化の魅力あふれる姉妹おもちゃ美術館を全国に設立している。木曾おもちゃ美術館は上記の通り全国で 10 館目に当たる。

お店屋さんごっこ 大人気

～寿司屋やピザ屋、そば屋など～

数多くのおもちゃや遊びの中で子どもたちに人気の一つが「お店屋さんごっこ」。寿司屋をはじめピザ屋、そして木曾オリジナルのそば屋の 3 つの店で寿司を握ったりピザを焼いたり、そば打ちを行ったりできる。

「いくらとマグロ、それにエビをください」とお客さん役のお母さんが注文すると、「はい、わかりました」と子ども店長が張り切って寿司を握っていた。

また、木曾五木(ヒノキ、サワラ、コウヤマキ、ネズコ、アスナロ)を卵型にしたボールプールも人気で、子どもたちが寝そべったりして木の感触を楽しんでいた。

あらためて木のおもちゃの魅力やめくもりを感じる事ができた。



木のボールプールで遊ぶ子どもたち

五感磨き 夢育てるグッド・トイ

2階の奥には「グッド・トイ」(良いおもちゃ)で楽しめるコーナーがある。(写真左) 東京おもちゃ美術館が認定するおもちゃで、国産材を使ったものから、世界のボードゲームまでさまざまなおもちゃが並んでいる。

「人は遊びを通して五感を磨き、コミュニケーション能力を養い、夢を育てる」グッド・トイとは、その手助けができるおもちゃのことで、遊びのスペシャリストによる投票で決まる。



グッド・トイの6つのポイントは次の通り。

- ① 心地よい音 ② 動きのバリエーション ③ 適度な大きさと重さ ④ 感触のよさ ⑤ 美しい色と形 ⑥ 丈夫で壊れにくい

美術館を支えるおもちゃ学芸員 ～町民から県外者まで 120人～

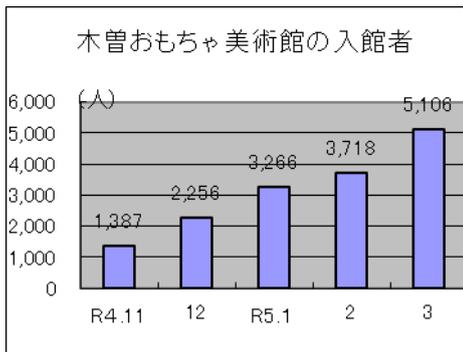
おもちゃ美術館の大きな特色の一つが「おもちゃ学芸員」(ボランティアスタッフ)の存在だ。若い人からお年寄りまで、町民から県外者まで実に120人余りのスタッフがお客様をおもてなし、世代を超えたコミュニケーションを生み出している。美術館を支える縁の下の力持ち的存在だ。

74歳でおもちゃ学芸員になった町内の男性は、「月に4日程度活動している。立っていることは疲れるが、いつも子どもたちからエネルギーをもらっている」と笑顔で話してくれた。



美術館を支えるおもちゃ学芸員

入り込み順調 1日平均 118人 ～多い日は1日553人も～



木曾おもちゃ美術館は令和4年11月19日のオープン以来、今日まで順調な入り込みを見せている。冬期間にもかかわらず3月は春休みもあり5,106人の入館者があった。今までの1日平均は118人。一番多かったのは3月26日(日)の553人で、この時にはさすがにてんやわんやで大変だったという。

また、そばや五平餅、すんき、黒川カレーなど地元の食事を味わえるミュージアムカフェ「四季」も特に週末は大にぎわいで、全メニューが売り切れになることもあった。

今後に向けて 入館者の声 ～駐車場の確保など～

おもちゃ美術館がオープンして早半年。開田高原の自宅からも近いため、子どもたちが孫を連れて帰って来ると毎回訪れるようになった。そこで私もパスポートを買って、今年も4回ほど訪れた。

そういう中で「こんなものがあっていいな」とか「ここをもう少し改善してもらえないかな」などという声を聞いた。参考までに。

○週末は駐車場が満杯。第2駐車場(北側)への案内があるが、そこは雪が解けどろんこ状態で車の乗り降りにも苦労するほど。

(注) 議会3月会議で改善を要望。今年度、補正予算で砂利を入れるなど対応してくれるとのこと。

○特に冬場などは、コートや荷物を置くロッカーがほしい。

○手洗いの水道、お湯が使えたら有り難い。

○食堂のメニュー、肉うどん以外のうどんもあってうれしい。



積み木で遊ぶ子どもたち

ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館のご案内

場 所：〒397-0002 木曾郡木曾町新開 6959

開館時間：10時～16時 カフェは11時～15時

ショップは16時30分まで

休館日：毎週水曜日(年末年始休館あり)

入館料：おとな(中学生以上) 800円(500円)

こども(1歳～小学生) 500円(300円)

パスポート：発行日より半年間有効

おとな 3,200円(2,000円)

こども 2,400円(1,200円)

()は木曾町民

電 話：0264-27-1011



はりきりご長寿列伝

やすだ りょういち
安田 良一 さん (88歳・木曾町福島) ⑳

高齢にもかかわらず現役で仕事をしている人や自分の趣味を大いに楽しんでいる人など、元気あふれるお年寄りを紹介します。今回は木曾町福島の安田良一さんです。なお、この様子は2月10日にNHKテレビのイブニング信州で放映されました。(注)NHKの「ご長寿列伝」は3月末をもって番組が終了しました。



安田 良一 さん

スキーの魅力や楽しさ知ってほしい ～スキー歴は60年余り～

中信米穀の木曾支店長や西糧商事の社長などを長年務め、79歳で退職した安田良一さん。今でも現役のスキー指導員で、スキー歴は60年を超える大ベテランだ。シーズン中60日余りは木曾福島スキー場へ通うというが、88歳の今でもスキースクールで教えたり滑りを楽しんだりしている。



スキーの指導をする安田さん(右端・1月10日)

20代に友達から勧められて始めたスキーだったが、安田さんはその魅力に取りつかれ「猛烈に楽しいスポーツ」にのめり込んでいった。結婚する際には奥さんに「俺からスキーを取ったらもぬけの殻になってしまう。スキーだけはやらせてくれ」とお願いしたという。

徐々に友人らと一緒に大会にも参加するようになり、八方尾根の大会では念願の「黒バッジ」を手にした。数多くある入賞記念品の中で、今でも一番の宝物だ。

現在、顧問をしている木曾福島スキークラブでは会長を長く務めた。また、県スキー連盟の理事をはじめ総務本部長を6年、副会長も6年務めた。総務本部長の時に開催された長野オリンピックでは、とても苦労はしたが貴重な経験

をすることができた。役員席で観戦した原田選手の団体のジャンプは今でも鮮明に覚えているという。

スキーの魅力は「何とも言えない爽快感だ」と話す安田さん。全国を歩いているリフト会社の人々が以前「木曾福島スキー場の景色は全国でも5本の指に入る」と話したというが、安田さんもスキー場から眺める御嶽山の美しさに「体が震えるほどの素晴らしい景色だ」と感じている。

1月には平沢メソッドを学ぶ会で指導したが「80歳を過ぎてもスキーは歩くことが出来れば大丈夫。スキーは危険だと思われるが決してそうではない。中高年をはじめ多くの年代の皆さんにスキーの魅力や楽しさを知ってほしい」と熱い思いを話す。

私の本棚 『神秘の音色』木曾の町から(田中勝己 著・文藝出版)

首長生活16年、議会議員30年の出来事や思いなど、以前に『民主文学』などに掲載したものや未発表のものをまとめた前木曾町長・田中勝己さんの著書。

作品は国有林改革を求める運動やバイオリン制作者の陳昌鉉先生との出会い、御嶽山の噴火、オウム真理教との闘いなど、その多くは著者の体験に基づいているが、創作の部分も含まれていてとても興味深く、楽しく読むことができる。

編集後記

先日、春の蔵開きが行われた。七笑酒造や中善酒造店、小池糶店による恒例の催し。私も友人と参加。久しぶりに昼間から美味しい新酒をいただきほろ酔い気分になった。やっぱりイベントは楽しい。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携 帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com



Facebook